

“福岡発のイノベーション”目指すイベント開催 官民パートナーシップでアフリカの課題解決に新たなアイデア



「アフリカの成長見通しは世界で最も明るい」と語るアヨテレ・オデュソラさん(奥左)。

「第7回アフリカ開発会議(TICAD7)」のプレイベントが「FUKUOKA X AFRICA INNOVATION」と題して福岡市で開催された。これは、JICAと民間が連携して「福岡発アフリカ向けイノベーション」を生み出すことを目的とした2回シリーズのイベントだ。2018年12月17日の第1回では、UNDPアフリカ地域局のチーフエコノミスト、アヨテレ・オデュソラさんや教育情報サービス社長の荻野次信さん、日本植物燃料代表の合田真さん(14ペー

ジ)らが、アフリカ開発の展望や情報技術を活用した金融・農業サービス事業、アプリによる教育事業などについてプレゼンテーションを行った。当日は県内から幅広い業種の企業関係者が出席したほか、大学や医療関係者の姿も見られ、参加者からは「アフリカの可能性について理解できた」「企業の事例が参考になった」などの声聞かれた。3月に開催される第2回では、参加者同士の議論を通じて具体的な事業アイデアを創り出す。

ニュース深掘り! オープンに語り合う場がSDGs達成に導く

国連やアフリカ連合がSDGs達成のための重要な手段と位置づけているSTI(科学技術イノベーション)。JICAでもイノベーションやSTIを開発に取り入れていく必要があり、技術やノウハウを持つ民間企業や学術機関とともに、既存の枠組みを超えた新たな事業を創り出そうとしています。今回のイベントは、そうしたオールジャパンの知見を活性化させようというもの。さまざまな分野の人びとが集うオープンな場を設けることで、議論を重ねる中から新たな連携やアイデアが生まれることを期待しています。今後、福岡だけでなく各地で同じような取り組みを進めていく予定です。

イベントには定員を超える多数の応募があり、民間の方々も前途有望なアフリカに高い関心を持っていることが窺えました。地域活性化のためにも、地方から海外に挑戦することは特に意義があると思います。JICAがアフリカで培ってきた人脈や知見とSTIを掛け合わせれば、ビジネスとしても成立する持続的な支援が実現できるはず。さまざまな人びとと分野を超えて協力し合い、イノベーションによるアフリカの課題解決を推進していきたいと思えます。

JICA
アフリカ部 次長
若林基治
わかばやし・もとはる

1997年JICA入構。セネガル、マリ、モロッコに駐在。アフリカ部アフリカ第四課長を経て現職。



JICA HEADLINE NEWS

- | 1月15日 | ▶ **コートジボワール、経済都市の立体交差点の双方向化に無償資金協力**
アビジャンの交通渋滞の緩和に50億2,700万円を限度とする贈与契約を締結。
- | 1月10日 | ▶ **農業保険制度をインドネシアで推進**
Swiss Re社と協力覚書を交わす。水田の農業保険制度に対する政策提言を目指す。
- | 1月9日 | ▶ **ルワンダの首都キガリの送水施設整備に無償資金贈与契約**
安定した給水サービスの提供を図る。キガリ市の住民約44万人に恩恵。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>